

自治・共生・活力部会

1 区民と協働・協創する自治体

- これからの区職員は、積極的に地域に出て多様な人々と信頼関係を築き、多様な主体と協働・協創し、地域の課題を解決すべきである。区職員は、地域に出て区民と協働するとともに、地域に出るために、情報通信技術（ICT）を活用するなど、業務の効率化を図っている。
- 区の政策形成過程においては、より区民の意見を聞き、反映する仕組みが必要である。全ての区民が、最適な情報を得て、誰もが、いつでも、気軽に意見を言う機会と多様な手法があり、区民の声が反映される仕組みが整っている。
- 複雑化する地域の課題に対応するには、様々な主体が課題の解決に関わる必要がある。区が中心となって、多様な団体等を結びつけ、個人や団体の垣根を越えた協力により、問題点が共有され、地域の課題を解決している。
- 区の情報発信力を高める必要がある。区民の特性にあった媒体や手法を選択し、情報発信することで、多くの区民に必要な情報が届き、伝える情報は人を惹きつける魅力的なものになっている。また、区民同士も情報を発信し合うことで、新たな協働が生まれている。
- 区の組織は縦割りのため、どこに相談して良いのかわからないことがある。区は、組織間で情報の共有化を図り、区民から寄せられる様々な課題に適切かつ円滑に対応する質の高い窓口サービスを提供している。

○自治体間連携

○オープンデータ

2 違いを力に変える多様な連携

- 近年、区内の外国人が急増している。外国人が、言語の壁なく、地域コミュニティに参加し、就労し、地域住民と互いの存在を尊重しながら、生涯を通

じて住み続けられるよう、地域には、多様性を許容する寛容さが育まれている。

○中野には多様な個性や価値観を持った人々がいるので、誰もが受け入れられるまちになると良い。多様な生き方、性のあり方、働き方、個性や価値観が受け入れられ、互いに配慮・尊重されている。

○違いが集まることで、まちに新たな力や行動が生まれるものである。区民の主体的な活動により、地域ごとの特色が生まれている。

○ハンディキャップのある人が、まちに出ることを躊躇することがないまちになると良い。誰もが自ら世界を広げ、共に生き生きと暮らすことのできるユニバーサル社会が実現できている。

### 3 地域愛を育む人のつながり

○地域で活動する時間やきっかけ、情報が無いという人が多くいる。地域には、地域活動のいろいろな形、活動に触れる多様な情報やきっかけ、活動を伝える様々なツールがあり、誰もが、いつでも、気軽に地域活動を始めることができる。

○これまでの地域団体以外にも、地域とつながる場があると、初めての人には入りやすい。同じ関心や経験、課題等を持つ人同士の緩やかなつながりが、地域において複層的・重層的に存在している。

○地域の人材を活かすための仕組みが必要である。地域課題を解決する資源として、仕事や学びで得た技能、知識を持った地域の多様な人材や地域活動の情報がまとめられ、地域に共有されている。

○地域団体の高齢化や担い手不足が課題となっている。若者が楽しめる活動等により、持続可能な地域社会が形成されている。また、大学生が積極的に地域に関わり、まちに活気を生み出している。

○町会・自治会の加入率が低下し、地域のまとめる力も低下している。一人ひとりのライフスタイルやプライバシーが尊重されながら、誰もが地域で孤立

せず、あいさつにあふれ、「ご近所さん」との豊かな関係が生まれるまちが形成されている。

#### ○地域への愛着

### 4 区内経済活動の活性化

○企業と企業、企業と地域等の持続的な連携により、区内経済の活性化と、地域に貢献するサービスの提供ができるが良い。多様な主体が連携することにより、区民生活を豊かにする産業や、付加価値を高めたサービスが生み出され、区民の生活がより豊かになっている。

○商店街は、コミュニティの核としての機能がある一方で、売り上げが減少傾向にあり、空き店舗数が増加しているという課題がある。商店街は、魅力ある商店が集まり、区民のニーズに応じた商品やサービスを提供するとともに、空き店舗などを利用して、地域の特色を生かしながら、コミュニティやにぎわいの場としての多彩な社会的役割を果たしている。

○区内経済を活性化するためには、事業者が本社を置きたいと思えるような魅力が必要である。先端技術等の新たな産業や、区民生活を豊かにする産業など、多様な事業者に、中野区が事業拠点として選択されている。

○就業形態が多様になり、多様な働き方をする人が増えている。就業と地域活動を両立できるなど、多様な働き方を受け入れるまちになっている。

○子育て世帯が住むことで、需要が喚起される。それにより、区内経済が活性化している。

#### ○来街者・観光客

#### ○女性や高齢者の就労

### 5 身近にある文化・芸術

- 文化・芸術には、まちの魅力や活力を向上させる力がある。ポップカルチャーなど、中野ならではの雑多な文化活動が活発に行われ、それらの情報が集約され、中野の魅力として内外に発信されている。また、ジャンルを超えた団体同士のつながりから、新たな文化活動が生まれている。
- 文化・芸術は、新たな価値観の形成や、若者や学生をまちに巻き込むことなどに影響力を持っている。文化・芸術活動を通じて、まちの持つ多様性が区民に共有されるとともに、新たなつながりが生まれ、地域が活性化している。
- 区内では、プロによる活動から趣味活動まで、様々な文化活動が行われている。区民による多様な文化活動が活発に行われ、区民は日常生活において、身近に、多様な文化・芸術活動に触れている。
- 幅広い人が文化・芸術に親しめるよう、すそ野を広げることが大事である。まち全体を舞台とした多様な文化・芸術活動や、気軽に表現できる環境等により、障害の有無や国籍に関わらず、区民の技能が高まるとともに、あらゆる区民が文化・芸術に親しんでいる。
- 中野には歴史があり、高い水準の伝統文化がある。中野に息づく歴史や伝統文化が保護・継承され、それぞれの魅力が内外に周知されている。